

令和6年度

亶理町地域おこし協力隊 活動報告

亶理町地域おこし協力隊 黒田 あすみ

任期：令和4年10月1日～令和7年9月30日

自己紹介



- ①町の風習「七夕馬」を学びながら非常時のお守りを作るワークショップ「ほどける馬っこプロジェクト」を主催し、定期開催。
 ②町民の皆さんが心に抱く「ありがとう」や「ごめんなさい」をインタビュー取材。来年度公開予定のウェブサイトにて掲載する。
 ③町民の皆さんが訪いできた生活と文化に視線を合わせ、町内を日々奔走して、町の魅力を記録に残している。



私の活動が、町の子どもたちをはじめ多くの方々が互理町をより好きになるきっかけとなれるよう、今後も全力で取り組みます。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

私は移住前までの職務経歴を活かし、町の魅力を発信することで地域活性化に取り組んでいます。
 雪国に生まれ、大学進学以降はおもに都市圏で暮らした私にとって、互理町は美しい自然や柔らかな気候、利便性のある町並み、歴史的な雰囲気などがほどよく調和した、心地よい生活環境だと感じています。
 今年度は、町の風習の伝承と防災力向上をテーマにしたワークショップの定期開催や、「町のみんなの毎日」をコンセプトとするウェブサイトの制作に伴う取材を通して、町民の皆さんとの温かい交流を深めています。
 今では、任期満了後も町を拠点に、フォトライター業を続けていきたいと考えています。



互理町地域おこし協力隊
黒田 あすみ



黒田 あすみ（クロダ アスミ）

山形県上山市出身。

現在はフォトライター、編集者として活動しています。

これまでの職務経歴の中で約10年間、JR系列の駅ビルを運営するデベロッパーに勤務し、南東北の各県に根ざした施設運営や産業振興、情報発信に携わりました。

また、東北各地のトピックを伝える住民参加型ニュースサイトの通信員としても活動し、地域の日常に寄り添う発信をつづけています。



※左記の画像・テキストは

広報わたり令和6年12月号掲載の「協力隊だより」を転載しました。

活動の目的



令和6年度は、亘理町に息づく人々の声や文化、地域資源を、「ヒト」「モノ」「コト」の3つの視点から捉え直し、町の魅力を記録・展開・編集することに取り組みました。

具体的には、地域に根ざした町の日常や歴史を丁寧に掘り起こし、自身の視点で再構成することで、町民の皆さんへのインタビュー取材、参加型ワークショップの開催、地域メディアサイトの構築に向けた準備・設計（令和7年度に公開を予定）などに励みました。これらを町民一人ひとりが地域へ向けた新鮮な視点や気づきを得る機会とし、地域の魅力を次の世代へと繋いでいける仕組みづくりを目指しました。

【おもな取り組み内容】

ヒト： 町民の日常の声を記録するインタビュー企画を実施

モノ： 年中行事「七夕馬（馬っこ）」をテーマに、防災と伝承を融合させたアートワークショップを開催

コト： 町の魅力や文化的背景をアーカイブし、発信する地域メディアサイトを企画立案・設計

亘理町に住む方たち自身が自分たちの地域をより深く知り、好きになるきっかけづくりを意識しています。ひいては、町全体の幸福度の向上にも結びつけられるよう、今後も信念を持ち、継続的に取り組みます。



町民インタビュー「ありがとう、ごめんなさい」

- ✓ 町民の感情や体験を「郷土文化」として捉え、日々の暮らしに根ざした声を丁寧に記録することで、「町の今」のすがたを掘り起こしました。とくに「ありがとう」「ごめんなさい」といった身近な言葉にまつわるエピソードを、町民の皆さんから聞き取るインタビュー企画を通じて、日常の声を丹念に記録。令和7年度には、ここから見出せる「亶理町らしさ」を自分なりの視点で編集し、ウェブ上で発信する予定です。

採集した言葉や写真は、これまで、令和7年度の公開に向けて準備・設計を進めてきた地域メディアサイトにて紹介します。町民の皆さんが郷土に対するアイデンティティを見つめ直すきっかけとなるほか、町外の方々にとっても亶理町の魅力にふれる入り口となるよう、発信を行っていきます。

● 実施内容：

- インタビュー（感謝・謝罪の気持ちについてのひと言）
 - 手書きメッセージ（好きな色の画用紙に「ありがとう」「ごめんなさい」を記入）
 - 写真撮影（手書きメッセージを胸に掲げた姿、さりげないオフショット）
-

町民インタビュー「ありがとう、ごめんなさい」

町での生活を多角的に見わたせるインタビュー結果を目指し、移住者や定住者、若年層や高齢層など多彩な背景をもつ16名の方々よりご協力いただきました。



ほどける馬っこプロジェクト



「七夕馬（馬っこ）」は、亘理町に伝わる七夕行事のひとつです。かつては家屋や馬屋の屋根に馬型の草人形を置き、田の神様やご先祖様の帰郷の目印としていましたが、現在ではその風習も、町の記憶から消えつつあります。そこで、防災力の向上と文化の伝承と目的に、「お守り・防災グッズとしての《ほどける馬っこ》」として、町民の皆さんとともに現代の感性で再表現するワークショップを企画・運営しました。

● ワークショップ詳細：

この取り組みは、美術家・力石咲さんとの協働により実施。会場や対象に応じて、主に2種類のワークショップ形式で展開しました。すべての「ほどける馬っこ」には、ほどこき始めの目印となる防火布製タグを装着。タグには、防災素材の活用方法を学べるウェブページへのリンクコードを印刷しています。

児童クラブほか

- 馬っこの風習を学ぶ
- 骨組みに防災素材のポリエステル紐を一筆書きで巻き、ほどける馬っこを制作
- 完成した作品は各自が持ち帰り、家庭でお守り・防災グッズとして活用

一般公募参加

- 馬っこの風習を学ぶ
- 防災素材のポリエステル紐を編み、参加者でパーツを分担して、一体のほどける馬っこを共同制作
- 防災士・鈴木裕美さんによる講話を通じて、防災や減災について語り合う
- 力石咲さんによる「編みの技法」で再表現されたほどける馬っこを持ち帰り、家庭でお守り・防災グッズとして活用



ほどける馬っこプロジェクト



●開催回数：17回

●延べ参加者数：143名

●町に誕生した
ほどける馬っこ：135頭

●開催協力

- 亶理町立郷土資料館
- 亶理町中央児童センター
- 荒浜児童館
- 逢隈児童館
- 吉田西児童館
- 手作り工房「すずらん」
- サポートケア
亶理ありのまま舎
基幹相談支援センター
- 港町お茶っこ会
- 亶理町社会福祉協議会
- 亶理町立図書館
- 亶理町中央公民館

ワークショップ開催記録誌を制作し、
開催協力各所と希望者に配布←

地域メディアサイトの立ち上げ（3年計画の2年目）



亘理町に暮らす人や文化、風景、営みを多面的に取材・記録し、町が紡ぐストーリーとして、未来に開かれたかたちで発信するべく、新たな「地域メディアサイト」を企画立案しました。伝統的な文化と現代の日常に基づいた新しい文化の両方が守られ、育まれ、さらに発展していくことを支援する役割を目指します。

- サイトコンセプト：町のみんなの毎日
- サイトタイトル：ひとり、ふたり、わたり this is our story, our town.

町の文化や歴史は、特別な行事に限らず、日々の言葉や風景、営みの中にも息づいています。ですが、こうした地域の魅力は記録に残りにくく、世代を超えて失われていくおそれがあります。そこで、文化や暮らしに根ざした視点からの発信を目指し、以下のような準備・企画を進めてきました。集めたストーリーは、町の魅力に誰もがふれられる「アクセスできる資産」として整理・発信できるよう制作進行中です。

- ・町民インタビューや文化資源の現地取材（撮影・編集）【ヒトページ参照】
- ・地元特産品やスポーツ大会に関する調査および関係者への取材協力交渉。農作業や各種大会等の現場撮影
- ・亘理町を舞台地とする作品に関する調査および関係者への取材協力交渉。着想風景のすり合わせ、現地撮影
- ・町内の史跡や文化財等の撮影
- ・サイト構造（サイトマップ）の設計、テーマ分類の検討
- ・デザイン素材（水彩絵地図等）の外部発注、制作内容のすり合わせ
- ・外部コンサルタントへの監修相談



地域メディアサイトの立ち上げ（3年計画の2年目）

サイトコンテンツ（予定）

タウンヒストリー

大事な営みを、大切に伝えていく

- 町の文化財の紹介
- ほどける馬っこプロジェクト記録誌の紹介
- 「ありがとう、ごめんなさい」
町民インタビューの紹介
- 読む震災遺構『荒地の家族』『小さな神たちの祭り』着想風景の紹介



ローカルアクティビティ

贈り合うエール、つながるころ

- 花火：東北未来芸術花火、ふるさと夏まつり
- スポーツ競技（町内に設備を有するもの、町内を会場に大規模大会を開催するもの）：サーフィン、バスケットボール、スケートボード、クリテリウム、トレイルラン、シクロクロス、クリケット



トラディショナル

守るため、作り手は挑みつづける

- はらこめし提供事業者（協力隊員との対談）
- アセロラ生産者（家族間の対談）
- いちご生産者（家族間の対談）
- りんご生産者（家族間の対談）



「東北未来芸術花火2024」 広報協力

- ✓ 町の大型イベント「東北未来芸術花火」において、広報記事の企画・執筆、デザイン制作を通じて貢献しました。

● 記事執筆（ニュースサイト「TOHOKU360」掲載）：

- 取材・撮影・執筆・編集までを一人で担当しました。
- 記事2本とも1万3千～1万7千PVを記録（当時上位）。

● 大沼克哉隊員主催のはらこめしPRイベント：

- 包装資材のデザイン制作を担当しました。
- わたりんスタンプの既存デザインをメインに配置し、町と特産品の認知拡大を目指しました。



令和 7 年度の活動予定

令和7年9月30日をもって最長3年間の任期を満了し、協力隊としての活動を終了いたします。残り半年の活動期間は、**これまで取材・設計をかさねてきた地域メディアサイトの構築と完成（8月の正式リリースを予定）**を主軸に活動を進めていきます。任期最終年度として、亘理町が有する文化的価値を「記録し、見せる」かたちで残すことで、自身の活動の集大成を町の未来につなげていきたいと考えています。

活動終了後も亘理町を生活拠点とし、フリーランスのフォトライター・編集者として活動を継続する予定です。これに伴い、個人事業の一環として本サイトの管理・運営を継続して行い、亘理町の発信に取り組むことをライフワークの一環とする所存です。

地域メディアサイト「ひとり、ふたり、わたり」サイトマップ（予定）

